

させほ夢大学

発行 ● させほ夢大学広報委員会
事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555
FAX.0956-25-9545
http://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

お尋ねテレホン 25-9556

夢のつづき

させほ夢大学会報

No.179 <2009・12>

平成21年度
第8回

2009年 12月17日(木)

アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後 5:30
●夢のひろば 午後 6:00
●講 演 午後 6:30

今回の講師は、初代 林家三平氏の妻として、夫の死後も一門の中心として活躍されている海老名香葉子さんです。

第二次世界大戦中、沼津市に疎開している最中に起きた東京大空襲で、両親、祖母、兄二人、弟の家族6人を亡くされました。当時、国民学校の5年生だった香葉子さんは、三番目のお兄さんと二人だけ生き延びるという、つらく悲しい経験をなされています。

戦後、父の知人である三遊亭金馬師匠宅に引き取られて育ち、昭和27年、林家三平氏と結婚されました。

昭和55年、「昭和の爆笑王」といわれた夫の死後、4人の子供と惣領弟子のこん平氏を始め30名の弟子を



支えて一門の支柱となり、今日に至るまで一門存続を担ってこられました。

節目節目に彼女を支え、そして守ってくれた言葉は、お母様の「香葉子は明るくて元気で強い子だから大丈夫よ」。お父様の「寂しくなったら父ちゃんと3回呼んでみなさい」という、愛情あふれる両親の言葉だそうです。

つらい経験を乗り越えて来た香葉子さんの明るさ、強さ、慎ましい礼儀正しさに見られる人間の深さを、お話の中で味わっていただけることでしょう。

どうぞご期待下さい。

講 師 ● エッセイスト えびな かよこ 海老名 香葉子 氏

テーマ ● 泣いて 笑って がんばって



次回のご案内

- と き / 平成22年1月20日(水)
- 講 師 / 元 読売巨人軍選手 くわた まさみ 桑田 真澄 氏
- テーマ / 夢をあきらめない

●昭和43年大阪府生まれ。PL学園で1年から甲子園5回連続出場。2度の優勝・準優勝、20勝するなど大活躍。61年、ドラフト1位で巨人軍入団。5月には中日戦初登板、6月には阪神戦完投初勝利を果たした。ベストナイン、沢村賞、最優秀防御率、年間MVP、最多奪三振、ゴールデングラブ賞など記録を残し、タイトルを獲得。平成7年に右ひじ靭帯断裂のケガを負うが9年に復活を遂げる。18年12月メジャー挑戦のため、21年間在籍した巨人軍を退団 (通算173勝)。翌年1月、パイレーツとマイナー契約。6月メジャー昇格を果たし、ヤンキース戦に初登板。20年3月、惜しまれながら現役引退する。

海老名 香葉子 氏のプロフィール

●東京都本所生まれ。昭和27年、昭和の「爆笑王」落語家 林家三平と結婚。無名時代の苦労を共にしながら、林家こん平ら30人余の弟子の面倒をみる。55年、夫・三平の死後はテレビ、雑誌などでコメンテーター、エッセイストとして活躍中。二男二女の母でもあり、長男は九代林家正蔵 (落語家)、次男は二代 林家三平 (落語家)。著書に生い立ちを綴った「ことしの牡丹はよい牡丹」、高等学校の教科書に採用された「あした天気になあれ」など多数。





江守 徹氏

流石に舞台・ドラマ・映画出演する傍ら、ナレーションや朗読・吹き替え等の声優として、幅広く活躍されている江守徹さんは、日頃対談等で「朗読は音だけだからこそ、深みもあり、いろいろの話や状況を自分の中で創造できて面白い」等と話されているとおり、言葉ひとつひとつを大切に話されているのが印象に残りました。以前NHK番組で聴いた「漢詩紀行」そのものの声での講演を目の当たりにして、一層の親近感が沸いたのも私一人ではないと思います。

芝居人生は母への想い

天神町 吉田 秀典

幼い子供を残して戦死された父と、現代では希薄になった母子の関係のしつかりした様子が伺われて、やはり教育の基本は家庭が大切だと今更ながら、話を聴きながら感じました。戦後の困難時代に子供を育てる為に、懸命に努力されたお母さんの様子を聞くにつけ、その当時、多くの家庭がそうであった様に、同じ戦死した家庭で過ごした私の境遇にオーバーラップして、胸を打ち、改めてファッンになりました。幼い時から今に至る苦難の親子人生の教訓を含めて話され、母親の何気ない教育方針が貴重で納得ができて、今の時代とは違う困窮時代

の懐かしさも伴って時間の経つのを忘れて感心して拝聴しました。自分の初心目標を貫く為に、困難な環境を信念と努力で貫き、乗り越えて成功された様子は、表面で見るタレントの華やかな裏に隠された、人間味溢れる姿を十分に感じさせられる傑出の夢大学の講演会でした。これからは、各方面で今以上の成功を期待し、映画・テレビ・芝居等の演出を自分のものから祈りたいと思いました。



■夢大学にお世話になって早いもので六年になる私です。毎月の講演が楽しみで、いつもわくわくしながら話の内容に感動したり感激したりで、なんだか気持ちが若返って、この日ばかりはうきうきの私です。皆様のお世話がさぞや大変だろうと本当に感謝しております。

黒髪町●山中 キヨ子

■私は夜勤明けでウトウトしていた。そこに現れたのが相西小の「金管バンドクラブ」であった。江守徹先生のお話もすばらしかったが、相西小の子ども達が奏でる音楽も負けてはいなかった。ジャズの軽快なリズムで会場を沸かせてくれた。大人の心まで掴んでしまう「金管バンドクラブ」に敬意を表したい。これからの活躍に期待したい。

中通町●友廣 慎一

■格好いい江守さん、漢詩の朗読や世界遺産のナレーション等を聴きたかったなあ。期待していただけにちょっと残念でした。

佐々町●江田 靖子

■相浦西小の金管バンドクラブ。今日のすばらしい演奏ありがとう。これからの活躍を期待し、また聴かせて下さい。江守徹氏、65年間の人生淡々と語られました。何か温かくほっとする時間をいただきました。

川棚町●福田 ツネヨ

■昔から知ってる様な気がして、まだ65歳とは正直驚きました。ナレーションやCMなどで洪い声を聞き素敵な方だと思いました。病気を克服されこれからも元気で活躍されることを期待しています。

木風町●西 照美

■押しも押されぬ大俳優の江守徹さんの隠れた苦勞を知り、驚きと感動でした。勝ち気で前向きなお母様に育てられ、素直で親孝行な方と知りました。

桜木町●原 尚子

■可愛い子供達の今も変わらぬ伸びゆく才能をかいま見たようで、嬉しく思いました。

田原町●藤井 文夫

■天候の悪い中、講師 江守徹氏の来佐を気遣う声、開場前の行列の中から聞こえる。江守氏の生い立ちを中心に、独特な笑顔と素晴らしい声での講演は、さすがに大物江守徹さんですね。

松川町●杉山 源次郎

折橋町●田口 清紀

夢のひろば

◆ 日 時 / 12月17日(木) 午後6時00分~20分

◆ 演 目 / 男声合唱

◆ 出 演 / おおくぼ一いず

代表 / 古賀 良一 他20名

指揮 / 山口 順子

伴奏 / 北島 早苗 久野 直子

◆ 出演者紹介

平成5年、大久保小学校PTAの親父の会、学校の先生方との出会いの中で結成された団も、昨年創部15周年を迎え、記念のCD「ふるさとの四季」も作る事が出来ました。

あこがれの夢のひろば、今回が3回目、私共研鑽とステップアップのステージでもあります。

子ども達の教科書から消え、まさに忘れ去られようとしている懐かしく心温まる童謡・唱歌を歌い継ぐ事で、心豊かでたくましい子ども達の健全育成のために、又明るい街づくり、社会づくりに貢献できる事を信じて歌い続けてまいります。

◆ 曲 目

1. かたつむり
2. 証城寺の狸囃子
3. 青い目の人形 他

江守 徹を育てた母の偉大さ

人柄にふれて

比良町 須藤 広光

江守徹という俳優を絵のデッサンに例えたら、6Bの様な濃い鉛筆で強いタッチの勢いある線で描いてあるイメージであった。が今回の講演で感じたイメージは、2B程度の鉛筆で濃淡を付け、繊細にして深みのあるデッサンとなった。

今までは、野太い声、おおらかな笑い、個性的でドスの効いた演技、テレビ画面の向こうの江守徹氏はこの様な人物であった。今回の講演では静かな喋りだして自分の人生観を語られた。また演台は使用せず、舞台の前に立ち全身を見せる、さすが舞台俳優出身だなあと感じた次第である。あの立ち姿から直ぐにでもシエクスピアのセリ

フが出て来そうな雰囲気であった。やはり存在感のある方であった。しかし若い時は苦労をされた様で、若者特有の悩み、苦しみ、また金銭的な苦労など、我々凡人とあまり変わらない青年期であった様であるが、違うところは演劇が心から好きで、その初心を貫かれたところである。それにまた、持つて生まれた演技の才能、素晴らしい出会いがあったためと思われる。このような過程を踏んでこられたからこそ演技の厚みがあり、テレビあるいは舞台を通して個性的印象深い演技が見られる事だと思ふ。更に日本の演劇を作り上げて行ってほしいと思つてゐる次第である。

講演を聴かれた感想をお待ちしています！ ※締め切りは講演日の1週間後(必着)

何故 俳優になったのか

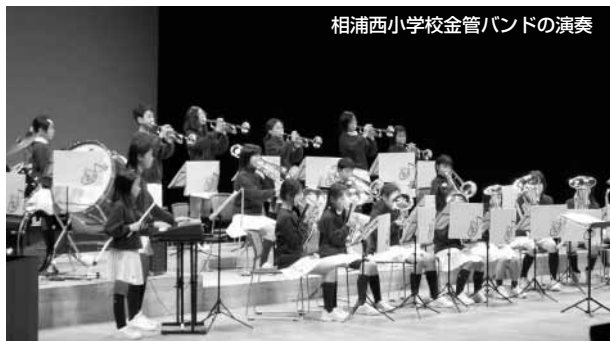
谷郷町 澤田 みさ

J・POP二曲と、ジャズの名曲二曲。小学生とは思えない、金管の響き。佐世保人の心に染み通る様な演奏で、将来を担う子供達に期待したのは、私一人ではなかったのではないでしょうか。

その余韻も冷め遣らぬ中、シツクなスーツ姿で登壇された江守徹氏。三年ほど前に脳梗塞で倒れたとは思えない、あの独特の低音の良く通る声で、静かに語り始められました。

「何故、俳優になったのか」という、人生の根幹にふれる話をされる江守氏は、母一人子一人の子供時代を通して形成されていった過程を、ゆっくりりわかり易く語られました。不遇ともいえる子供時代、で

相浦西小学校金管バンドの演奏



もその中で、映画を観る楽しみに目覚め、やがて憧れとなつていく心の動き。穏やかな口調とは裏腹に生きていくことがいかに厳しいものであったかという事は、想像を超えるものだけに違いありません。

高校時代、演劇部に在籍したことで、新劇の存在を知り、劇団員となる道へと誘われ、文学座付属研究所へ。そこで勉強の日々はどんなにか密度の濃いものであったのか、あの淡々とした語りの中では、私達凡人には計り知れぬものであったことでしょう。

徐々にその才能を開花させていかれた氏は、長岡輝子女史に認められ、新劇人としての階段を確実に上つていかれました。本当に淡々とした語り口に時の経つのも忘れ、ひきこまれた一時間半でした。惜しむらくは、杉村春子さんのお話も伺いたかったと思ひました。次回に期待したのは私だけではないでしょう。

母と二人三脚の俳優への道

東山町 中溝 悦美

夢のひろばでは、一生懸命演奏するかわいい小学生の金管バンド。私事ながら娘のトロンボーン姿とダブリ、つい微笑んでしまいました。

さて江守徹さんと言えば、多少目立ちたがり屋のニヒルな見栄っ張り、しかも心地よい声の俳優さんという印象があり、どんな語りで話が進むのだろうと楽しみにしていました。意外



講演を聴かれた感想をお待ちしています!!

●400字詰原稿用紙1~2枚程度にまとめてお書き下さい。短文でも結構です。掲載分にはささやかですが記念品をお送りします。締め切りは講演日の1週間後(必着)といたします。感動がさめないうちになるべく早く書いてお出し下さい。

●せっかく頂いた原稿でも、紙面の都合上掲載されない場合があります。また、一部省略させていただくこともありますので、ご了承下さい。

あて先は、〒857-0863 佐世保市三浦町4-30 松蔵ビル3F させぼ夢大学 事務局

「人から注目を浴びたかった」という言葉が成し遂げられた裏には、努力と実力があればこそと思ひました。



ふるさと 北松紀行

8

吉田松陰の腰掛石

江迎町史談会 会員
石田 忠

左内、山鹿流兵学の宗家山鹿万助がいることを聞き、佐内に礼を厚くして儒学を探求し、また万助の門を叩いて家学（養家の吉田家は山鹿流兵学者範）を究めることになって、平戸には五十数日滞在した。

松陰は九月十三日に、日暮れて江迎宿に到着し庄屋の家に泊まっている。その庄屋の家の前にあった庭石にへたりこむように腰掛けて、暫し長旅の疲れを癒したといわれている。その日の模様を西遊日記（原文のまま）で示すと次のとおりである。

『一、十三日 雨、早岐より佐世保浦へ二里、浦より中里へ二里、中里より江向（現在の江迎）へ四里、共に八里。皆五十町と云ふ。夜に入り江向に着し、庄屋の家に投宿す。是の日の艱難実に遺忘すべからず。一には、八里の間、皆山坂峻岨の地なり。二は、雨に依りて途中傘を買ひ煩を添ふ。三は、獨行躑々、呼びて應ふるものなし、唱へて和するものなし。四は、新泥滑々、行歩遅滞す。五は、夜に入り宿に至り、宿すべき家なく、徘徊周章し、終に庄屋の家に宿す。其の他の艱難枚擧に勝へず。江向亦海濱の地なり。是の夜、平戸の人某と同宿す。昨夜、二朱一片を出して銅銭に代ふ、是亦極めて重し。佐世保にて蓬杖を忘れ半程計り還る。佐世保一醫僧の誤る所となり、浦に入る。

江向を距ること一里半程の處にて日暮る。是の夜、平戸人に遭はずんば、其れ亦如何ぞや。天なるかな。』と。

松陰は翌日平戸に到着し、葉山左内を訪れ、来着の挨拶をして（松陰は前年五月に佐内に文を送り、遊学の意を表していた）旅宿の斡旋をお願いし、浦ノ町紙屋に下宿した。

その後、松陰は日毎に葉山の門を叩き、また山鹿の講義に列し、そこで知り合った多くの藩士とも往来し、夜学会にも出て、請われて経学を講じている。

また砲術師範の豊島権平にも接して、砲術の指導を受けたのみならず海外の急迫の事情を聞き開眼啓発されたようである。

葉山・山鹿両家老をはじめ二十六人との交流の記録から平戸藩がこの天才早熟の松陰を、藩を挙げて処遇したことがうかがえる。

松陰は嘉永三年（一八五〇）八月二十五日二十歳にして初めて郷里を出て九州遊歴の途に上り、十二月二十九日に帰宅した。この遊学は、毛利藩公から平戸に佐藤一斎門下の儒学者葉山

戸に佐藤一斎門下の儒学者葉山



庄屋跡にある吉田松陰の腰掛石

専務のたのしみ



●ご夫妻で見えました！
させば夢大学の講演に来られる講師の方は、お一人で見えたり、マネージャーの方を同行されたりといういろいろですが、時々ご夫妻でお越しになります。

今回の江守徹さんもご夫妻でお見えになり、奥様は会場から江守さんの講演を聴かれています。江守さんはほとんど動かず、後を振り向かれないままのお話でスクリーンには気付かれなかつたようですが、奥様はとも効果的であつたとおっしゃいました。（スクリーンでご覧になつて惚れ直されたのかも・・・）江守さんは「アルカス大ホール」の音の響きがとても良い。ここでの芝居をやってみたいなあ」と言われていました。その内実現するといいいですね。

●相浦西小の金管バンドに感激！
新型インフルエンザが市内学校でも流行し、学年・学級閉鎖が新聞等で報じられていましたから、相浦西小金管バンドの夢のひろばへの出演に影響が出ないかと気を揉んでいましたが、幸いなことに予定通り実施することができました。生憎の雨の中を授業終了と同時に駆けつけ、早速音出し・リハーサルと限られた時間の中で取り組まれていました。

●今年の折紙ツリーは？

1辺70センチメートルの正方形折紙での大きいバラ150個と、小さなバラ約3500個でアレンジしました。今年は、十九島の青い海とホワイトクリスマススの感じを表現しています。今月25日までアルカス2階ロビーに展示しています。ライトアップされたツリーもまた格別です。どうぞご覧ください。（毎日夕方、午後5時より点灯）

「こんにちは」と元気良いあい